

【所属名：環境生活課】

【会議名：第2回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成25年12月27日

日	平成25年12月16日	時間	9:30 ~ 12:05	場所	本庁 201・202 会議室
件名	議題 糸魚川市新エネルギービジョン策定方針について 糸魚川市新エネルギービジョン（案）について 糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における温室効果ガス削減目標について (公開)				
出席者	【出席者】 12人 佐藤委員、鷺澤委員、小笠原委員、小野委員、恩田委員、腰越委員、斉藤委員 杉野委員、田村委員、山岸委員、山本委員、吉田委員 【欠席者】 2人 磯貝委員、黒崎委員 【事務局】 吉岡部長、渡辺課長、中村課長補佐、高野係長、小熊主査				
	傍聴者定員	人	傍聴者数	0人	

会議要旨

1	開会	進行 渡辺課長
2	会長あいさつ	佐藤会長
3	議事	
《主な質疑・意見》		
・糸魚川市新エネルギービジョン策定方針について 【質疑応答なし】		
・糸魚川市新エネルギービジョン（案）について 【委員】 糸魚川温泉や中川原用水の事業の可能性とあるが、調査は誰がしたのか。 【事務局】 新潟県がしたもの。 【委員】 市として単独でやっているわけではないということだが、市ではやらないのか。 【事務局】 今のところやっていない。 【委員】 この調査対象はどのように選ばれたのか。 【委員】 県全体の可能性について、専門業者に委託し調査している。中川原用水の小水力発電の調査については、水が豊富で急流なので選ばれたのかと思う。 【事務局】 新潟県全体で見ても、温泉が多い、川も急峻で水量が多いということから、県全体で推進していると聞いている。小水力は県から適地調査があり、本市として中川原用水で手を上げたもの。小水力発電は来年度、実施計画で調査を予定している。		

【委員】 市内の新エネルギーの実態の説明と、市のエネルギーの利用はこのように考えていて、今後どうしていくのか委員の意見がほしい。その結果、新たな進め方を考えていくということでもいいか。

【事務局】 考え方としてはそれでいい。今後の考え方については、この後説明させていただく。

【委員】 中小規模の水力発電は載っているが、それ以外の水力発電のデータを市は把握しているか。全体では、市の電力自給率はどの程度か。
気象条件はアメダスデータであり、もっと細かくしないと、市の地形では、山の陰などで風力データなどはあてにならない。

【事務局】 水力発電は具体的な数字は持ち合わせていないが、東北電力・黒部川電力などで営業運転しているのでデータは公表されている。
明星のバイオマス発電施設があり、市内の消費量と発電量の比較ではエネルギー自給率は100パーセントを超えている。
気象条件は市内の全体傾向を把握するため掲載した。今後、詳細な検討をするにあたっては、各地域の細かいデータを参考にして行く。

【委員】 大企業も含めた全体で考えれば、企業が去れば一気になくなってしまう。市全体のエネルギーだとしても、家庭だけを考え示していかないといけない。そういうデータをとっていかないと評価に差が出る。目的は何なのかということ。
温暖化対策の資料を見ても、製造業が下がってきている。産業の景気でこれだけ変化する。これでは目標に向かっても仕方ない。家庭に絞り込んでいくことが必要と考える。

【事務局】 この後、具体的な取り組みを示すが、どういったことに絞っていくかも今後の論議としていただきたい。対象の絞り込みは必要と考えている。
全体の枠組みでは、こういった新エネルギー活用の実例を入れていかないとビジョンになって行かない。

【委員】 世界的レベルで森林が激減している。糸魚川市は森林に恵まれている特性を生かした各種計画でないといけない。CO2 吸収対策として、森林保全を記載していかないとおかしい。間伐材のペレット利用も森林保全に役に立つ。CO2 であれば本当は海洋のプランクトンが大きな役割をしている。その海を汚さないためにも森林は守らないといけない。全てに関わってくる。大事な柱として持って行かないといけない。

【事務局】 承知した。

【委員】 一次産業と二次産業は、市に収入がある産業。三次産業は市の人々が消費し外に出ていく。このバランスはどのような感じがいいと考えているか。市が潤えば人も集まってくる。

【事務局】 バランスはなかなか答えられない。産業構造も変わってきている。製造業も海外で事業展開する企業もある。今までのエネルギー構造と違い林業の衰退もある。糸魚川市がいかに生きていくかということを考えていきたい。

【委員】 農業と林業の従業員 196 人とあるが、農業と林業を分けるとどうなるか。

【事務局】 林業専門は少ない。森林組合などがここに当たる。

【委員】 賦存量・利用可能量は市で調べたのか。

【事務局】 総務省が作ったガイドラインを利用し、あてはめたもの。

【委員】 雪氷熱利用が×となっているが、なりわいネットワークの方では、雪蔵を利用した商品の開発の話があり、酒蔵などが参加し、今冬に商品開発の取組みをしている。×ではないと思う。

【委員】 ×や△の物の方が、逆に事業性がある。どこもやらないこと。

津軽リンゴの話では、無農薬で、やっとできた物が高く売れている。評価して◎になるものはどこでもやっている。みんなと違うことが需要の可能性としてある。

【委員】 林業で生計を立てている人が少なく、バイオマスで1という評価がある。当市は森林資源が多い。林業は人間が働ける場。そういう視点で見てほしい。現状では難しくても、どうしていいのかということ。

最終的な評価は後でもいいが、そういう資源がどの程度あるのか、そういうことを調査して行くということを、新エネルギー計画に入れてほしい。どの程度の資源量で、どの程度金がかかるのか。

3セクでも企業にでも働きかけていけばいい。最初の10年は厳しくても、出来た時にはいいものになる。そういう企業に糸魚川に来ていただくこともいいこと。

【事務局】 雪氷熱利用もバイオマス熱利用も、全国的にはニーズが少なく、このような評価になっている。この計画が完成するまでに、各種検討していきたい。

【委員】 バイオマスは、県でも検討会をしている。小水力発電も県の農地部で関係団体をつくっている。糸魚川市にも確認を取っているが商工農林水産課には情報がなかったようだ。市の中でも情報を共有していただき取り組んでほしい。

【事務局】 情報収集がうまくいっていないところがある。内部はもちろん、県とも情報を共有していきたい。

小水力研究会には参加している。内部でも意見交換をしているが、さらに深めていきたい。

木質バイオマスの量が少ないとなっているが、木材は建築用材などとして使っているのが、大前提としているので、捨てているものをこういうものに使うということで推計をしている。全体の森林資源をどう活用していくのかということの参考としたい。

【委員】 電線の下を伐採するが、法的に産業廃棄物にならない。今、セメント会社が建築廃材などの産業廃棄物を利用している。そういうものも含め調査していくのは面白い。

【事務局】 ここの記載は一般的な見方を示した物で、お話しのようなことを今後反映していく。これらを組み合わせて利用していく方法もあるので検討したい。

【会長】 一般的な物と、当市で活用していくものを一緒に考えると混乱するので、きちんと分けて話していきたい。導入についても、事業主体をどうしていくのかということ。そういうものを加えてビジョンをつくってほしい。

【委員】 風力発電は能生に2基あるが、ずいぶん前に導入されたもの。そういう面での問題もある。今の技術なら、安全面・管理面で向上している。山の上などに多くの風車を設置している所もある。そういう場所の状況は把握しているか。

【事務局】 当市の2基は、風が強過ぎ破損する場合があります、そういったことの修繕にお金がかかり、収益性は見込めない。大きければ大きいほど壊れる確率もある。風が強い年と、弱い時があり、適正でない。北海道などは、適度の風がありうまくいっている所がある。当市はそういう面で風力発電が難しいところもある。気象条件をコンピュータでシミュレーションできるが、風力は乱流があり大きな影響を及ぼしている。大型風力の適地は調査していかないといけない。風力発電は経済性が見込みづらく、一か所に多くの風車を設置し、採算性を高める必要がある。技術開発を見ながら糸魚川市に適した物を考えていきたい。

【委員】 資料4では、非常用発電機の併用とあるが、いざという時に医療に使えるようなものなのか。例えば手術時などに切り替えて使えるか。

【事務局】 一般的な発電システムは、一旦切れて再始動する物とは思っている。基本的には病院独自で整備することであるので、これらのシステムとは別の物と考えてほしい。

【委員】 森林保護は大切だが、自分は近所の方から杉花粉が飛ぶと言われ伐採した。新エネルギーと健康被害などの関わりはどう考えるか。

【事務局】 不要になったものを使ってエネルギーとして生かしていくもので、木として使えるものまでを新エネルギーとして行くものではない。

【委員】 山の所有者がわからなくなってきたので考えていかないといけない。

【委員】 所有界は全国的に分らなくなってきた。森林活用はA材、B材、C材とランクがあり、木質バイオマスはC材という使えないものを原料にしている。コストが高くなっているので、機械が入るような場所をつくりトラック等を入れる施策を行っている。

糸魚川市でも、糸魚川産材で家を建てる取り組みにも補助を出している。そういうことで森林に目が向けば、森林の整備、維持管理がしやすくなる。

間伐にも国・県のお金が入っている。森林を活用するための施策を行っており、木質バイオマスは、そういうもので使えない物をうまく原料としている。

【委員】 新エネルギーはコストでは合わない。一次産業は労働力が必要で雇用が生まれ、人口減少が止められる。そういうことも含め新エネルギーを考えていかないといけない。今の小中学生は山に行くこともなく、山は荒れ放題。

・糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）における温室効果ガス削減目標について

【委員】 15パーセント削減の中に、吸収源対策は入っているか。

【事務局】 具体的にこういうことまでは入っていないが、吸収源対策として森林整備も計画の中に搭載している。

【委員】 温室ガスの削減目標が案でなくなるのはいつか。

【事務局】 本日、15パーセントでご確認いただいたので、これで中の数字を再度見直させていただき、審議会にお示しをしてから、この会議の中で論議いただく。

【委員】 業務部門が23年度増えている利用は。

【事務局】 電力のCO2量が増えていることと、景気回復で、業務部門が伸びている。

【委員】 温暖化対策は答申することになるが議会との関わりは。

【事務局】 議会のご意見はいただくが、承認を求めるものではない。

【委員】 新エネルギービジョンの取扱いはどうなるのか。

【事務局】 新エネルギービジョンは、皆様の意見をお聞きし、市が決定するもので、取り扱いは異なる。

4 その他

5 閉会 鷺澤副会長